

主 題：あるべき夫婦の姿

聖書箇所：エペソ人への手紙 5章22-33節

厚生労働省発表の2003年度日本での婚姻数は740,220組で、約40秒に1回の割合で結婚していることとなります。反対に離婚数は283,906組でこれは約2分に1回の割合で離婚がなされていることとなります。つまり単純にいうと、結婚の数の約3分の1が離婚している計算になるのです。

かの内村鑑三はこのように言ったそうです。「家庭とは多くの日本人にとって幸福な場所ではなく、むしろ忍耐の場所である」と。確かに現実はそのかもしれません。しかし、神のみこころはそうではありません。神は明らかに、家庭を、また夫婦を祝福しようとしておられるのです。本来、家庭とは最も祝福の受け易い場所なのです。

聖書が教えている正しい夫婦のあり方とは？

それは、神の知恵であり教えである「みことばに戻る」ことです。このみことばを信頼し、その教えを実践して行くことです。私たちの周りには、余りにも多くの誤った考えや価値観があります。確かにあるものは一時的には効果があるかもしれませんが、しかし、私たちを造られ、すべてをご存じの神のことば、そして、私たちを何よりも愛し、祝福しようとしてくださっている神が教えてくださっていること、それ以上のものはどこにもないのです。

今日は、エペソ5：22-33を通して、夫婦としてどのようにあることが聖書が教える正しい夫婦の姿であり、神の祝福を得る道なのかを見て行きましょう。

1. 妻は夫に従いなさい 22-24節、31-33節

◎これは時代錯誤という問題ではない

22節に「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。」とあります。夫婦関係において、みことばが第一に教えることは、「妻は、夫に従いなさい」ということです。このようなことをいうと、「何と、時代錯誤な…」と思われるかもしれませんが、これは神の命令です。私たちがまず理解しておくべきことは、聖書は男女が平等であることを教えているということです。パウロはまたこのように言っています。ガラテヤ3：27-28「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。」と。今から2000年前、ローマには多くの奴隷が存在しそれによって社会が成り立っていました。そして、女性も軽く見られていました。このような時代にパウロは先のみことばを語ったのです。聖書はどんな時代にも変わりなく男女が平等であると教えて来ました。聖書の教えがその時代の先端をいていたのではありません。確かに、キリスト教の動きが女性の地位向上に貢献したことは事実ですが、これが永遠に変わることはない「神の教え」なのです。

◎ここで使われている「従う」の意味は？

「自発的に、自分を下に置く」という意味です。いわゆる「隷属的な服従」のことではありません。同じエペソ6：1、5にも「従う」とありますが、それとは違う動詞がここでは使われているのです。6：1、5は「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。」「5奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。」と、親に対する子どもの従順や、主人に対する奴隷の従順について使われていますが、22節の「自分の夫に従いなさい」は自ら進んで、率先して、仕える者となるという意味です。「主に従うように」とあるように、あなたがたが神に仕えるその同じ思いで、自ら進んで仕える者となるということです。

◎家庭内における「かしら」はだれであるべきでしょうか？

夫婦の間でどうしてそのような主従関係が必要なのでしょう？その理由は23節にあります。「23なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。」「キリストは教会のかしらであって、」と、教会が何を求め何を優先し、どのように動くのかというその命令や基準は、キリストの教えにあるように、夫婦間にあってはそのリーダーシップ(=権威)は夫にあるのだということです。教会はみことばの教えていることに基づいて進んでゆきますが、夫婦の中では夫に権威が委ねられていますから、妻は意見を言っても最終的な判断、決定は夫が責任をもってする、そして、妻はそれに従う、これが神の教えることです。24節にもあるとおりです。「教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。」

では、なぜここには初めに妻に対する教えが言われているのでしょうか？リーダーシップをもつ夫への教えから始めるのでは？と思いますが、家庭の基礎である夫婦間でその責任の所在を明らかにするため

であることが23節のみことばからも分かります。アダムとエバが罪を犯したときのことを見てみましょう。創世記3：1-6「さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」：2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。：3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ。』と仰せになりました。」：4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。：5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」：6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。」妻であるエバがはじめに禁断の木から実を取って食べ、それを夫にも与えたのです。神はそのことをご存じでしたが、神は夫であるアダムに声をかけアダムを責められました。続いて11節まで見ると、

「：7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。：8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間にも身を隠した。：9 神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」：10 彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」：11 すると、仰せになった。「あなたが裸であることを、だれがあなたに教えたのか。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」。アダムはこのとき何処にいたのでしょうか？エバといっしょにいたのです。それなのにエバの行動を止めなかった、彼は自分のなすべき責任を果たしていなかったのです。だから、神に責められたのです。

エペソ5：31を見ましょう。「それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」ここで再び夫婦についての教えがなされています。「一心同体」というのは人間関係を表わすことばでこれ以上に親密なことばはありません。家族において、まず優先されるのは夫婦の関係であることを教えています。ですから、結婚した女性は自分の子どもや両親より夫を優先に物事を考えて行くべきなのです。もし、このみことばのとおり実践していないなら、それは神に逆らっていることとなります。そこには神が与えてくださる祝福も喜びもないのです。

2. 夫は妻を愛しなさい 25-33節

次は夫の責任です。それは「妻を愛する」ということです。結婚した夫婦が愛し合うというのは当然のことですが、ここではもっと深い意味を教えてください。25節に「**夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。**」とあります。イエス・キリストが私たちが愛されたように、夫は自分の妻を愛することを教えられているのです。

◎25節の「**キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、**」とは？

1) **アガペーの愛**：25節の「愛する」ということばはギリシャ語の「アガペー」ということばの動詞形が使われています。「神の愛」、「無条件の愛」「自己犠牲の愛」という意味を示すことばです。「**キリストが教会を愛し**」とありますが、これは私たちが何かを愛する場合とは決定的に違います。私たちが愛することにはそこに何かの理由があります。「自分の好みだから」とか「自分の子どもだから」「自分に良くしてくれたから」とか…。しかし、神は私たちのうちにそのような「愛すべき理由」を見出されたのでしょうか？否です。聖書は、私たちは生まれつき神の怒りを受けるべき存在であったことを教えています。エペソ2：1-3を見ましょう。「**あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、：2 そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。：3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。**」、私たちはだれも例外なくこのような者だったのです。神が私たちのうちに何か愛すべき理由を見出されたのでしょうか？全くないのです。しかし、神はそのような私たちが愛そうとしてくださった、これが「神の愛」＝「無条件の愛」なのです。そして、これは「感情の愛」ではなく「意志の愛」です。

また、「神の愛」は「自己犠牲の愛」でもあります。「**教会のためにご自身をささげられたように、**」とあるように、イエスは私たちが救うためにご自身のすべて＝いのちを犠牲にしてくださいました。私たちが主張するのは「私はあなたを愛している、だから、あなたにこのようにしてほしい!」ということですが、これはアガペーの愛ではありません。相手に何かを要求することではなく、相手のために自分がどのような犠牲を払うかということです。

2) **それは相手の本当の必要を満たそうとする**：続く26-27節に「**キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、：27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。**」とあります。イエスがなぜ愛する理由のない、また、愛する価値のない教会を愛し、ご自分を犠牲にされたの

か、その目的が書かれています。それは、教会に何が正しく、何が間違っているのかを教えて、さらに彼らを成長させて、そして、最後のさばきのときにさばかれて永遠の滅びに行くことのないようにするためだということです。このように、アガペーの愛とは相手の本当の必要を覚え、相手の成長を願い、相手がより正しく、より価値のあることを選択して行くことを願うのです。

夫婦においても同じことです。31節に見たように、夫婦の関係は強い結び付きで継ぎ合わさっているのです。「一心同体」とはその意味です。ですから、28-29節でもそのことが教えられています。「**そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。：29 だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。**」、相手が痛めば自分も痛いのです。相手が悲しめば自分も悲しみます。近頃は「愛している」ことが相手を傷付けたり、苦しめることであつたり、相手を利用して最後には自分が得をするといったことが見られますが、そのようなものは本当の愛ではありません。ここで教えられているように、神が私たちを愛してくださったその同じ愛で自分の妻を愛するのです。たとえ、相手がどのようであっても、自分に良いことをしてくれなくても愛することです。あなたは相手を無条件で愛しているのでしょうか？相手の必要を満たそうとしているのでしょうか？相手を喜ばせ励まし成長させることばを掛けているのでしょうか？そのように行なっているのでしょうか？

3. 夫婦が神を第一にする 25-33節

最後にここで教えられていることは「夫婦ともが神を第一にする」ということです。なぜなら、ここで教えられていることはすべて、イエス・キリストを信じているということが前提になっているからです。もし、あなたがイエス・キリストを信じる信仰をもっていないなら、ここで教えられていることは正しく理解できないはずですよ。

◎私たちの周りで起こる問題の原因は何でしょう？

夫婦関係であろうと、親子関係であろうと、それらの問題の源は私たちのうちにある「罪」が原因なのです。創世記の初めを見ると、人間が罪を犯す前は彼らの内に何の問題もなかったことが分かります。人間は神によってそのように造られたのです。しかし、人間に罪が入ったときから、私たちは相手のことより自分を優先し、自分をだれよりも可愛がろうとするようになりました。自己中心です。これが罪の根源です。夫婦間においても、親子であっても、私たちのうちに問題が起こるのは、お互いが自分を優先しようとするからです。

ですから、イエスは「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか？」という問いに対して、「一番たいせつなのは神を愛すること、そして、次にあなたの隣人を愛すること」と答えておられます。黄金律ともいわれるイエスの教えです。マルコ12：28-34「**律法学者がひとり来て、その議論を聞いていたが、イエスがみごとに答えられたのを知って、イエスに尋ねた。「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか。」：29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。』：30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』：31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」：32 そこで、この律法学者は、イエスに言った。「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない。』と言われたのは、まさにそのとおりです。：33 また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する。』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」：34 イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。「あなたは神の国から遠くない。」それから後は、**だれもイエスにあえて尋ねる者がなかった。**」**

私たちはともすれば自分を優先してしまいます。私たちが良いもので満たしてくださっている神よりも、妻よりも、夫よりも、自分のことを最優先しようとしてしまいます。それこそが問題の根源なのです。本当に神を知り、その神に従って行こうと願うなら、私たちは変えられて行きます。神がそのように助けてくださるからです。神は私たちが思っている以上に、私たちの最善を知っていてくださるのです。

◎ I ペテロ 3：1-4

しかし、私の家庭はクリスチャンホームではない、自分の配偶者は未信者だから…とそのような理由が出てくるかもしれません。それに対してペテロはこのように教えています。I ペテロ 3：1-4「**同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとなされるようになるためです。：2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。：3 あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、：4 むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」**

神は間違いなくあなたを愛し、あなたのためにすべての必要を与えてくださっています。生きるために必要な食べ物、生活環境、健康も。そして、あなたのたましいに関しても、あなたがより正しく価値

ある人生を送ることができるように、罪の問題を教え、それを完全に解決できるようにイエスを送ってくださったのです。そして、今また私たちの家庭にあって喜んで生きることができるように、そのカギを教えてください。

神はあなたを愛し、あなたに祝福を与えようとしてくださっているのです。その祝福を受けるかどうかはあなたの選択です。神の知恵をいただいて神の助けをいただいて生きて行くかどうかです。私たちは「結構です」と言ってその祝福を拒むこともできます。しかし、その結果が何かは私たちはもう知っています。多くの人たちが神を無視し、神の知恵に従おうとしない、その結果が今の日本の状態ではないでしょうか？物質的に繁栄していてもそこには本当の満足がない、本当の愛がない、神はそのような状態を通して、私たちに本当に価値あるものが何かを教えてください。